

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0193600269	
法人名	株式会社 健康会	
事業所名	グループホーム 柏木	
所在地	苫小牧市柏木町5丁目1番20号	
自己評価作成日	令和4年4月17日	評価結果市町村受理日 令和4年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyvoysoCd=0193600269-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和4年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苫小牧市西部の住宅地にあります。2階建て、2ユニットのグループホームです。平成23年5月開設。今年で11年目を迎えます。現在、2階9名の方が入居されています。(男性が4名・女性が5名)入居者平均年齢は88歳。平均介護度3。スタッフは10名。(女性10名)スタッフ平均年齢は53歳。最高齢101歳の方を中心に、洗濯物干しや廊下掃除等の日課を、スタッフと共に行って頂いています。以前は買い物に行ったり、散歩等の外出が出来ましたが、コロナ禍で出来なくなりました。以前は1階との合同行事を定期的に行っていましたが、現在は2Fのみで室内でのレクレーションを工夫して実施しています。コロナ感染対策を十分に配慮しながら、活気のある生活過ごされる支援を続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成23年の開設時の管理者・職員で決め共有している。「地域とのふれあいを大切に」の内容が入っている。開設時より、それぞれの解釈は変わってきているが、言葉は変更していない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は町内会の行事に参加し交流も出来ましたが、コロナ禍においては、窓越しに交流を図る程度です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、電話等で対応させて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においては予防のため、開催せず。近況をお伝えする程度です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催を行っていないため、コロナ感染状況等の情報を頂いたり報告が主な取り組みです。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会会議を3か月1回開催。身体拘束の他にも「不適切なケア」「スピーチロック」等の内容で研修を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正委員会会議やカンファレンスの研修の他にも、会社全体で行っている「安全委員会」を中心に定期的にテスト等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政等からの通知をもとに学んだり、後見人制度利用の方の担当者から教えて頂く機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等一式の書類をもとに説明を行う。その際には、解約については、どのような場合(医師からの診断・家族の意向等)が想定されるか等の説明を行う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会が中止されている状況なので、個人的な要望を個別に聞くことが多い状況です。コロナに関する確認事項がほとんどのです。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年2回ラダー評価を行い、職員の意見を聞く機会を持っている。毎月、カンファレンスの際は意見交換をできる機会を持っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回のラダー評価を行っている。勤務年数が長い職員が多く、経験期間にも長くなってきているので、各自の向上心をもって働くための環境づくりについては今後の大きな課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社での全体研修が定期的開催されている。内容によっては、参加者が少なかったり、現状の業務と合わないことがある。今後は職員からの要望を聞き、効果的な研修の必要性を感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	苫小牧市のグループホーム協会の研修会もないため、会社のweb研修に参加が主な活動です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族・ケアマネジャーからの情報をもとに、本人からはセンター方式を使用して聞き取りを行います。本人からの聞き取りには、日々の関りで関係性を気づきながら行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初は入居申し込み時に、次は自宅訪問等の際にもお聞きします。入居開始日には、最初のケアプランを提示させていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時までの過ごし方、家族の関りをお聞きしています。特に出来ている事・心配な事を細かく教えて頂いています。その際に、入居してから想定される生活も伝え、当面の体制をとるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心して「自分の生活の場所」だと思って頂けるように、試行錯誤を繰り返しています。職員との生活の中での役割分担、他の入居者との関わりとバランスを考慮することを大切にしています。まずは、無理なく続けることを		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡方法は、手紙・電話・メール・ライン等、様々な方法をとらせて頂いています。コロナ予防の状況での面会方法を個別に考慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、電話を頂く程度です。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から個々への寄り添った介護を心がけ、入居者間の関係性を把握し、表情・言葉等の観察・記録等、職員全員での情報収集をもとに、食事の席・居室の場所・レクリエーションへの誘いを行う様にしている。お茶の時間に「女子会」と称し、男女かまわず、職員も一緒に、おしゃべりする時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ボランティアやウエス等の寄贈をいただいたりしています。介護の相談、他の施設・介護サービスの利用についての相談は電話で受ける事は継続しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の日課(食事・レク等)には、毎回全員に声掛けは行すが、無理強いはいしない。居たい場所に居たい時間過ごしていただく。ただし、孤立しないよう、職員が声掛け寄り添う事は大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて入居時の聞き取り・情報収集をもとに、日々の生活における会話の中からや家族からの情報で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のモニタリング(観察)を生活シートへの細かな記録により現状の把握に努めています。毎月開催しているカンファレンスで確認、情報を共有することで現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、1階2階別々にカンファレンスを行っている。計画作成担当者(ケアマネージャー)を中心に開催。事前に家族・担当職員からの情報を聞き、各ユニットの職員全員で話し合いを持っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の個人記録の様式が、介護計画に沿った日々の記録が出来るように改訂されました。見直しの際に、活かせるように配慮してあります。申し送りは、1日3回、ユニット別に行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、看取りケアを行っているご家族様に対しては、状況に応じて柔軟な対応ができる様な配慮を行っています。通院介助のご協力等は場合により行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、町内会や地域の皆様にご協力を頂いてましたが、現在は中止させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	18名中15名の方は、月2回の往診を受けています。3名の方は、入居前からの主治医を変更せず継続されています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護利用。看護師による入居者全員のバイタル測定実施。その際は、職員より状況報告・相談を行い指示を受けています。必要に応じて、看護師より主治医へ報告をお願いしている。薬局との連携も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の付き添い等は、家族の承諾がある場合、同行させて頂いています。その際は日常生活の状況を病院関係者へ直接伝えたり、求められた記録を提示しています。退院時の話し合いも、家族の承諾があった場合は参加させて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時には説明をおこない、重度化した場合の話し合いはもつようになっている。看取りの場合は、あらかじめカンファレンス・勉強会を行い、家族・主治医との話し合いをもち、対応させて頂きます。訪問看護との連携を日頃から大切にしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、初期対応・連絡手順はカンファレンス時に確認をしています。来年度は、避難訓練同様に計画をたて、訓練を行う予定です。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前は、毎月合同の避難訓練を開催していましたが、現在はユニットごとに行っています。コロナ予防に配慮しながらの訓練を模索中です。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴の介助等にあたっては、特に周囲の環境に気を付けています。言葉かけ・対応では、大きな声でプライバシーに関する事を話したり、本人に勘違いでも不快な思いをさせないように注意致します。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定できるように、ゆっくりと・簡単に選択できるように支援致します。日頃からの関りで、本人の表情・行動・職員間また家族からの情報で、本人からのサインを受け取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	特別な行事がない限り、本人のペース・日課で生活して頂いています。体調・睡眠状況によっても、個々で時間が違うので、無理強いせず生活していただけるよう支援致します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は、衣類は家族・本人で選び用意して頂いています。交換時期や合わなくなった場合は家族へ連絡し持参いただいたり、コロナ禍では通販を利用して頂いています。散髪はスタッフが承諾を頂き行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事、食卓の消毒から調理まで、職員を中心にみんなで準備しています。食事の形態、盛り付け・食器等の好み、機能性も個人に合わせて用意をしています。食後も食器洗い、食器拭きを入居者・職員で行います。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立をもとに、各ユニットで毎食調理をしています。体調、食欲、嚥下の状態に合わせて提供する形態は個々に変えています。目標水分量は1日1200～1500mlに設定しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日5回口腔ケアを行っています。(起床時・就寝時・毎食後) 口腔ケアセットは個別で用意、1階2階とも、洗口液＋歯磨きを実施しています。義歯を使用の方は就寝時預かり洗浄剤にて消毒を毎晩行います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	18名中16名の方が、紙パンツまたは尿取りパット使用しています。トイレ誘導または介助は、18名全員の方へ行っています。毎日の記録をもとに個々のパターンを把握しています。羞恥心を配慮し自尊心を傷つけないよう配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をもとに、主治医と相談し下剤処方されている方もいます。食事のメニューは栄養士が作成、内容は便秘対策にも配慮されている。水分は、個々により違いはあるが700～1500mlは摂取していただいています。1日の中で、それぞれのタイミングに合わせて、個々の好みの飲み物を提供させていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回以上の入浴を楽しんでいただいています。月～土曜日。午後1時～3時くらい。1日約6名。(それぞれのユニットで入浴)1対1の介助が基本ですが、身体状況に応じて、2人介助で対応しています。女性入居者よりの同性介助希望は対応致しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	三食の食事時間、10時・15時おやつの時間は一応決めてはいますが、1人1人の、その日の体調に合わせて個別に対応させて頂いています。起床・就寝についても、個々の対応を心がけてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご家族の承諾がある場合、入居時より「なの花薬局」と個々で契約していただき、薬の管理は薬剤師にお願いしています。現在は全員利用していただいています。カンファレンスにも参加していただいています。そのため主治医との連携もスムーズになっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入居者の方は、洗濯・料理を職員と一緒に参加していただいています。男性の方には、掃除の際にモップ掛けをお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、個別の散歩を実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望ある場合は、所持されている。多額にならないように、お伝えはさせて頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話は自由に使用いただいています。現在、個人で携帯電話を所有している方はいません。本人・ご家族の希望があれば、使用可能。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置(ソファ・テーブル)にて配慮をしている。壁には季節に合わせた飾りつけを入居者と一緒にいる。冷暖房・室温・湿度の調整はこまめに行う様になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのテーブルの配置を工夫。食事の際は、大まかに決まった席について頂きますが、日常的には自由にくつろいで頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお伝えして用意していただく。最近では使い慣れた物はもちろんですが、使いやすい物をお願いしている。例えば、開閉しやすいタンス等。あとは、家族や本人の写真。カレンダー等を願っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋、トイレの位置をわかりやすいように、大きな字で標識を付けたり、2階は各部屋の前に写真を飾る等の工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0193200094		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2号館		
所在地	名寄市大通北5丁目4番地		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	令和4年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193200094-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和4年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は幹線道路に面して近くコンビニや公園があり、買い物や散歩など日常的に出かけ活用させていただいています。コロナ禍でイベント事が少なくなり、地域の方々に接する機会も減少していますが、町内会の馴染みの方々とは収穫した野菜をいただきりなどの交流があり、また様々な場面でご協力をいただき地域に支えていただいていると実感しています。母体法人が運営する病院が近くにあり、医療連携を図っているとともに、他の医療機関にも通院支援を行って本人・家族の「安心」のつながるよう努めています。平屋建てで中央から左右対象のユニットはゆったりとした食堂と居間があり、入居されている方々の個性と雰囲気が反映されていて、家庭的な空間が広がっています。職員は家族との関係を大切にしながら、一人ひとりの支援を常に考えながら「安心」して暮らしていただけるよう取り組み、入居されている方々の「家」になれるようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、名寄市の市街地に位置し、閑静な住宅街にある平屋建て2ユニットのグループホームである。駅前からの大通り沿いで、近隣には中学校や高校、大学があり、コンビニや飲食店などもある利便性のよい地区である。法人は、病院を母体とした医療法人で、デイケアセンターや訪問リハビリ、認知症高齢者グループホーム2カ所の他、士別市には老人保健施設、訪問リハビリ、居宅介護支援、小規模多機能居宅介護、介護付き有料老人ホーム、小規模老人保健施設などを運営しており、医療連携が構築され、地域からの信頼も厚い。当事業所は、玄関に入ると中央に事務所があり、左右対称にユニットがあり、全体的に広くゆったりしており、天窓からの陽射しがあるリビングや食堂で、利用者は日中殆ど寛いで過ごしている。職員は、開設当初から定着しており、利用者に寄り添ったケアに努めている。町内会など地域との交流も日常的で、野菜など季節の味覚の寄贈が多く、「安心して、自由に生活できる家」の実践につなげている。認知症高齢者の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰も見られるように理念を掲示している。理念を踏まえケアプランの立案、実践で安心とそ の人らしく生活を送ることができるよう支援して いる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、 事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、事業所の行事に 招くなど交流してきた。ここ数年はコロナ禍で 行事等は行えていないが日常的な交流はある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の 理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしてい る	名寄大学看護学生実習の受け入れや、昨年は 大学へ出向き認知症についての講義を行っ た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価へ の取組状況等について報告や話し合いを行い、そこ での意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催していたが、昨年6月の開催 以来コロナ感染防止の観点から行えず、活動 報告のみ行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実 情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、 協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは相談しやすい雰囲気と環境があ り、直接出向き相談することもある。また、事業 所運営やサービスに係る疑問等についてもす ぐらに対応と回答をいただいている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指 定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基 準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	3か月に一度身体拘束廃止委員会で検討し、 持ち上がった課題を勉強会やカンファレンス の中で話し合い、目に見える拘束ではなく日々 のケアで不適切なことはないか検討すること で注意喚起している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ 機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 過ごされることがないように注意を払い、防止に努 めている	身体拘束廃止と関連し、勉強会やカンファ レンスの中で疑問に思うこと、困っていること を話し合うことでケアの見直しと確認を行 い、不適切な対応がないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体では学ぶ機会は持っていないが、管理者は対象になる方の申し込みや相談があった場合、関係者と話し合い活用につながるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談時には当事業所の内容を説明し、入居時にも契約書、重要事項説明書に基づき説明し、質問に対しても理解いただけるまで説明を行い、不安を最小限になるよう努め同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、面会はできないため以前よりコミュニケーションが図れなくなっているが、ケアプランの説明や受診後に状況報告をし、家族から要望を伺っている。入所者の要望等は日々、かわりの中で伺い、都度対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のカンファレンスに加わり、個人面談を通じて意見交換を行う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に一度の人事考課で個々の勤務状況や実績を把握し、個人目標を基に向上できるよう努め、結果を法人に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の機会を持つようにしている。外部研修についても今年は研修そのものが少ないが、内容と経験年数に合わせ受講できるよう調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者同士で相互訪問する機会はほとんどないが、名寄市が中心となっているICTを通して情報交換することが増えてきている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族等から情報収集を行い、職員間で共有し受け入れ準備をしている。入居後は、環境、人に慣れてもらえるように関わりを持ち一日でも早く安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、利用に至るまでの経緯を聞くことで、家族が困っていることや要望を把握し、どのように支援を行っていくか説明、理解をさせていただきながら関係を深めていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報から、現時点で必要な支援を見極め、職員間で共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやりたいこと、出来ることを職員や他の方々で行い、皆が協力しあう関係作りに努めている。入居者と職員の家となるよう言葉にもしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限をしているため電話や手紙、広報で様子を伝えることが多い。また、本人と電話で話す機会も増えた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会や外出にも制限はありますが、連絡の制限はしていないので電話での交流は継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考慮し座る場所や過ごす場所に配慮し、それぞれが安心して過ごせるよう環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の支援はあまり行っていないが、意向や相談に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や態度で生活の中で、何を求めているのかを考え職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネージャーからの情報を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録、申し送りなどを通して日々の状態に変化や、過ごし方等を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで意見交換し、現状に即した計画の立案に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常やケアプランに関する内容を色分けして記録し、振り返り、気づきにつながるよう工夫している。その情報を共有しケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じ受診の支援を行っている。また、待機されている方には通所サービスやショートステイ利用ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公園やコンビニがあり、散歩で足を伸ばしたりすることもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される医療機関への受診を支援することにより、これまでの医療機関を継続した受診が可能になり関係が築け突発的な受診にも対応していただけている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人運営の病院と連携し、医療連携で週に1回看護師訪問があり、1週間ごとに体調について記録したものを基に報告し、看護師からも意見やアドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合は細かく日常生活状況を伝え、入院中に混乱が起きないように努めている。また、入院先の医療機関と連絡を取り、退院後もスムーズに受け入れできるように備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	申込時の段階で事業所でできることを伝え、契約時に重要事項説明書に記載の「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、入居者と家族に説明し同意を得ている。主治医の判断に基づき協議し希望に添えるよう支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡方法については職員間で周知している。実践力には職員間でもバラつきがあるため全員が身につけているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。町内会の方々にも参加していただいていたが、コロナ禍のためここ数年は事業所職員のみで行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する言葉が、ついつい大きな声で言ってしまうたりプライバシーにつながる内容について目立たずさりげない対応を定期的確認する必要がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で一人一人と話をすることで自己表現、自己決定ができるようにしている。言葉で表現できない方もいるので表情や行動をみて対応を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事や入浴の時間は本人の希望にできるだけ添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好んで着る服など本人に確認して用意している。天候や気温に合わせて調整するようにもしている。美容室や床屋へは、職員が判断していることが多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを尋ね献立に入れたり、個人の嗜好によっては別献立にすることもある。食べやすい形態でおいしく召し上がっていただけるようにしている。配膳、調理、後片付けなどでもできる範囲で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し必要に応じ補食することもある。また、食べやすい形態にしたり一人ひとりに合わせた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの実践をしている。歯科受診で定期的な点検を受けている方もいれ、アドバイスを受けることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、必要時トイレへの声掛けを行っている。リハビリパンツやパットを使用しているが、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬調整服用しているが、乳製品や繊維質の多い食材を献立に取り入れるなど工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人に確認し希望に沿って週2回以上は入浴していただいているが、場合によっては職員側が決めていることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリを持たせて静かに過ごす時間、活動時間、休息時間を持つようにし、安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の変化に応じて薬の必要性を医師と相談している。処方の変更したら申し送りや記録で周知できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話から家事作業や編み物、縫物、散歩など各々が楽しみや気分転換が行えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は本人の希望時に対応するようにしている。以前は催しで外出したり、家族と出かけたりもここ数年は外出する催しを控えているため、機会は減少している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブル防止のため、了承の下事業所が管理し、買い物や必要なものがあれば職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は制限していないので、面会ができない分本人と話をしてもらう機会は増えている。本人自ら電話をかけることはほとんどなく、かかってきた電話で話してもらうことがほとんど。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音や室温などに配慮している。季節の花や飾り物をして心地よい環境を作るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓で過ごす方、ソファでテレビをみたり談笑されたり、座席を考慮しひとり一人が好みの場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んだり、仏壇を置き毎日お参りされている方もいる。それぞれに応じた居住になるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカーを使っている方もいるため物の配置が、妨げにならないよう安全に生活できるよう配慮している。		